おまえざきの人 きらり輝く人

新しい農業のスタイルを確立したい

栗本（くりもと）めぐみ さん

PROFILE くりもと・めぐみ（35・塩原新田）
静岡市出身。東京農業大学卒業後、７年間の民間企業勤務を経て、新規就農を決意。市内のイチゴ生産農家で１年間の実践研修を受け、平成21年に独立。

ゼロからの農業経営を

今日もビニールハウスの中で農作業に汗を流す栗本めぐみさん。県の『がんばる新農業人支援制度』を活用し、高松地区合戸でイチゴ作りを始めて３年になる。

実家が非農家にも関わらず高校生の頃から将来は農業に従事したいと考えていたという栗本さんは、大学卒業後、東京の青果物卸売り市場や食品会社へ勤務した経験を生かし、現在、市内で一人暮らしをしながら、新しい農業の方向性を見い出そうとしている。

「学生の時から農作業は数多く経験していますが、イチゴは始めて。とにかく３年間は１人でやってみようと思ってここまで来ました。台風の時などは多少の不安もありますが、研修でお世話になった農家も近いし、一緒に研修を受けた仲間もたくさんいます。今はまわりの農家さんとも親しくなっています。経営勉強会などにも参加しているので県西部地区の異業種の人たちとも交流があるので毎日、楽しくやらせてもらっています。非農家出身だから出来る農業のスタイルを作りたいと思っています。今年は、規模拡大しハウス４棟を増築する予定です。裕福とまではいきませんが生活も普通にできていますよ。農業は楽しいし、やり方によっては非常に魅力的な職業です。これから本気で農業を志す若い人が見て、こういうやり方もあるんだと思ってくれればいいと思っています」と話す栗本さん。

何事も実体験から学ぶ

農作業の合間をぬって震災後の東北地方へボランティア活動に出掛けたこともあるという。たった一人で軽自動車を運転し、向かった先は、宮城県南三陸町。明朝８時からの作業に参加し、被災地の現状を目に焼き付けてきた。

「実学主義というのか現場主義なんです。ボランティアとはどういうものか体験しておきたかったんです。今年も苗の定植が終わって時間的な余裕があればいろんなところに出掛けたいと思っています」と笑顔で話す栗本さん。がんばれ新農業人。